

都市計画マスタープランの策定に向けて 『くまがやまちづくり 地区別ワークショップ』 を開催しました

ワークショップ開催報告 東部地域版

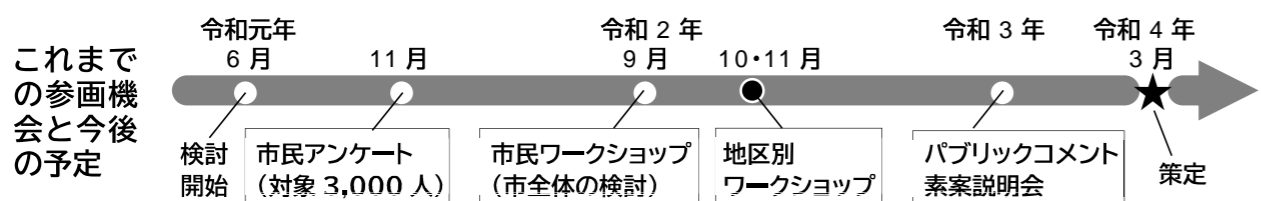
市では、都市計画やまちづくりを進めるための総合的な計画である『都市計画マスタープラン』の策定作業を進めています。将来のまちづくりに対する市民の皆さんの声を計画に反映するため、令和2年10月・11月に地区別ワークショップを開催し、延べ73名の方々に参加いただきました。この開催報告では、ワークショップの概要と市民のみなさまから頂いた意見の一部をご紹介します。

〈開催日時と参加者数〉

北部地域	令和2年10月31日(土)	妻沼中央公民館	参加者16名
西部地域	令和2年10月31日(土)	さくらめいと	参加者19名
中央地域	令和2年11月 3日(火)	商工会館(中央)	参加者13名
☆東部地域	令和2年11月 3日(火)	商工会館(東部)	参加者14名
南部地域	令和2年11月 7日(土)	江南公民館	参加者11名

都市計画 マスター プランとは？

概ね20年後を目指し、都市計画やまちづくりを進めるための基本的・総合的な考え方を定める計画で、土地利用、道路・交通、環境・緑・景観、住環境、防災などの分野が対象です。



① ワークショップの検討テーマ・手順

ワークショップは以下のテーマ・手順で検討を進めました。



② 東部地域で出された主な意見

将来の地域のまちづくりを検討していただき、以下のような意見が出されました。

地域の魅力と課題は？

●魅力

- ・歴史・文化・スポーツ・健康(平戸の大仏、愛染堂、スポーツ文化公園でのイベントやウォーキングなどでの健康づくり)
- ・第二北大通り開通による交通アクセスの良さ
- ・水辺とムサシトミヨ
- ・小学校を核とした地域交流が盛ん
- ・農地が多く、用水路が発達している(防災対策) など

●課題

- ・人が集まる公共施設や娯楽施設が少ない
- ・バスが少ない、車がないと不便
- ・スーパーが少なく、個人商店もなくなり不便
- ・信頼できる大病院がない
- ・インフラ整備(下水道、集落内道路が狭い、防災拠点)
- ・住宅地の防犯・交通安全(道路沿いの雑草、不審者、自転車走行ゾーンが少ない、空き家が多い)
- ・中学校区が広い、高校がない、小学校の統廃合 など

実施してほしい取組

●魅力向上のための取組

- ・ラグビー場の活用や充実
- ・医療、行政サービス等リモートシステムやAI・ICTを活用した地域
- ・熊谷駅を中心としたコンパクトシティ
- ・自然と調和した地域づくり
- ・多世代が集まれる場所の充実
- ・農業法人化 など

●課題解決のための取組

- ・住民が使える会館
- ・公共交通の充実(ラグビー場へのアクセス、デマンド交通、東西方向のバス)
- ・高度医療のできる病院
- ・中小河川の洪水に対する情報
- ・誰もが安心して通行できる道路 など

地域の将来像

●実現したい将来の生活(キャッチフレーズ)

- ・誰もが幸せを感じられるまち(自然が豊かな郊外でも不便を感じない生活、助け合いのできるまち、バリアフリー)
- ・全てが動き出す魅力ある街(住民参加のイベント、情報発信)
- ・農業で若者が稼げる(農業法人化、職住近接)
- ・安心安全なまち(シルバー施設、迅速な災害情報、高齢者や障がい者が安心して通行できる道路、集まれる場所、医療の充実)
- ・障がい者、老人、子育て世代が共生でき、子どもは夢、青年は希望、老人は生きがいがあるコンパクトシティ(足として利用しやすい交通機関、公共施設や公園、介護施設も集まる一極集中型拠点のまち、車に頼らない生活ができる)

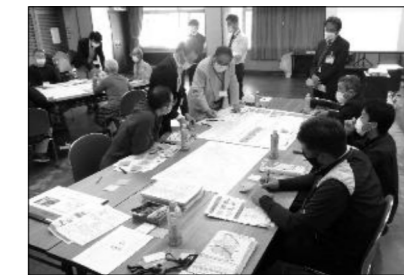
ワークショップの様子



Aグループ



Bグループ



Cグループ